

令和 3 年度決算概要説明書

令和 4 年 8 月 3 0 日

令和3年度の一般会計及び特別会計並びに公営企業会計の決算の認定をいただくに当たり、決算の概要を申し上げます。

【 総 括 】

新型コロナウイルス感染症の影響により、全国的に依然として厳しい経済状況が続いている中で編成した本市の令和3年度一般会計当初予算は、「新しい伊東スタイルへの挑戦 みんなで創る新たな未来」を市長経営方針に位置付け、財政健全化に向けた取組を着実に進めつつ、公約に掲げた「未来を拓く取組」の3本柱である「みんながつくる伊東市」、「みんなが楽しい伊東市」、「みんなが暮らす伊東市」に係る事業の一層の進展と新型コロナウイルス感染症対策や新しい生活様式への対応などを目指して編成いたしました。

歳出においては、サマーレビューで見直した事業費を予算要求額の上限とする中で、新型コロナウイルスワクチン接種事業や高齢者施設などに新規で入所する方にPCR検査を行う新型コロナウイルス感染症検査事業を始め、前年度見送らざるを得なかった、市民運動場人工芝生化事業やコミュニティエフエム放送局設備整備事業のほか、移住定住促進事業を始めとした人口増加策、伊東温泉宿泊促進事業や観光案内説明看板整備事業などの観光施策、商店街イベント補助事業や伊東産活力創出補助事業などの地域経済の活性化策、新図書館の建設に向け基本設計業務を委託する新図書館建設事業、おもてなしコンシェルジュ事業、サテライトオフィス等推進事業及びキャッシュレス納税導入事業などに予算を重点的に配分することといたしました。

その結果、一般会計の予算規模を272億7,000万円、前年度を0.8%下回る予算を編成いたしました。

その後、住民税非課税世帯等臨時特別給付金給付事業や子育て世帯等臨時特別支援事業などの新型コロナウイルス感染症対策のほか、地方交付税の増額や介護保険事業等社会保障関係の特別会計に対する繰出金の増額などの通常の補正予算など、8回にわたる補正を行い、最終予算規模を329億5,334万7,000円といたしました。

執行に当たりましては、常に国県の動向や経済情勢を注視しつつ、効果的・効率的な執行に意を注ぎ、山積する課題に積極的に対応し、新型コロナウイルス感染症に対しても、対話を基に市民の皆様との融和を図る中で、万全の対策

を講じるとともに、本市の発展に向け努力してまいりました。

以上、令和3年度の予算編成から決算までの背景を申し上げます。

引き続き、決算の内容につきまして説明いたします。

一般会計における歳入決算額は、323億5,163万3,000円で、対前年度比10.2%の減となり、歳出決算額は309億9,454万6,000円で、執行率は94.1%、対前年度比11.9%の減となりました。

歳入歳出差引額は13億5,708万7,000円となり、商工業振興補助事業や生活環境向上対策事業などの繰越明許及び事故繰越しにより、翌年度へ繰り越すべき財源4億5,634万1,000円を差し引いた実質収支額は、前年度を34.0%上回る9億74万6,000円となりました。

歳入決算につきましては、自主財源では、ふるさと伊東応援寄附金が増加したことにより寄附金が対前年度比38.9%、繰越金が対前年度比67.7%上回ったものの、大きな比重を占める市税が前年度収入額を3.1%下回るとともに、財政調整基金を繰り入れなかったことにより繰入金が対前年度比41.0%下回り、自主財源全体では、対前年度比2.5%の減少となっております。

依存財源では、新型コロナウイルス感染症対策の影響による市税の減収を補填する地方特例交付金が対前年度比737.2%、地方交付税が対前年度比で25.9%増加したものの、特別定額給付金給付事業の完了や新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の縮減などより、国庫支出金が対前年度比で44.0%、県支出金が対前年度比で5.5%下回ったことなどから、依存財源全体で、対前年度比15.3%減少しており、歳入全体をみても、対前年度比で10.2%減少しております。

歳出決算につきましては、経常経費において、扶助費が31.2%、物件費が8.1%増加しているものの、特別定額給付金給付事業の完了などにより補助費が65.4%、定年退職者の減などにより人件費が対前年度比5.5%減少しております。

投資的経費につきましては、普通建設事業において、災害時情報伝達システム整備事業や小中学校校内無線LAN等整備事業などが完了したものの、市民

運動場人工芝生化事業やコミュニティエフエム放送局設備整備事業などを実施したことから、対前年度比で18.1%と大きく増加しております。

また、新型コロナウイルス感染症が広がる中であっても、私が公約に掲げた「未来を拓く取組」の3本柱を実現するため、地域タウンミーティングや「市長への手紙」、未来ビジョン会議を開催し、その中で市民の皆様からいただいた御意見に対し迅速に対応するなど、ボトムアップによる市政運営にも取り組んでまいりました。

さらに、新型コロナウイルス感染症による市内経済の落ち込みを防ぐため、飲食店を対象としたプレミアム付商品券事業や伊東温泉宿泊推進事業を実施するとともに、経済変動対策資金貸付金利子補給などにより、事業者支援、雇用の維持に引き続き努めました。

以上が、一般会計歳入歳出決算の概要であります。

本市の財政は、職員の人件費を含むすべての事務事業の見直しなど、これまで一貫して継続してきた様々な改革への取組により、適正とされる規模の黒字を確保していることから、健全化判断比率や経常収支比率、実質収支比率などの財政指標も含め、その健全性は維持できているものと判断しております。

一般会計及び特別会計並びに公営企業会計の決算の概要につきましては、引き続き、担当部長から説明いたします。

私は、これまで「有言実行！！みんなとともに」を基本理念とし、「伊東の魅力を発信し、文化を高め、観光の振興と産業の育成によって、みんなが夢を形にできる未来を拓く」施策の推進にまい進してまいりました。未だ新型コロナウイルス感染症の終息は見えない状況にありますが、今後とも、「新しい伊東スタイル」の構築に向け、市民のため、本市の発展に努めてまいり所存であります。

最後になりましたが、本決算につきまして、認定いただくようお願い申し上げますとともに、本決算の意義を真摯に受け止め、市民の皆様や議員各位からの貴重な御意見、御指導をいただきながら、最善の努力をしてまいりたいと存じます。